

赤潮調査事業（毒化モニタリング調査）*1

概要

竹内 照文・小久保 友義・葦沢 宗博*2

目 的

県下の主要貝類生産水域において貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンである *Alexandrium* 属、*Dinophysis fortii* や *D. acuminata* の出現状況を調査し、貝毒監視体制の確立を図る。

なお、当事業は水産庁の補助事業であり、本報告書の全文は「平成5年度赤潮防止対策事業報告書（毒化モニタリング調査）」として報告したものである。

方 法

調査は1994年4月から'95年3月まで、和歌浦湾、田辺湾、串本浅海漁場と浦神湾で行った（図1）。調査項目は水温、塩分、毒化原因プランクトン（*Alexandrium* 属、*Dinophysis fortii*、*D. acuminata*）の発生量とヒオウギガイやアサリの貝毒（PSP、DSP）である。

結 果

- 1 和歌浦湾では6月中旬に *A. catenella* が最高 1.2×10^5 cells/l の密度で出現していたが、アサリ採取点では *A. catenella* の出現が少なく、PSPは全てNDであった。
- 2 田辺湾では5月中旬に *A. catenella* が 10^3 cells/l のオーダーで出現していたが、ヒオウギガイのPSPは32 MU/g（中腸腺値）までで規制値を超えることがなかった（図2）。また、アサリのPSPは全てNDであった。*D. fortii* と *D. acuminata* は各々 10^1 、 10^2 cells/l のオーダーで出現していたが、アサリのDSPは全てNDであった。
- 3 串本浅海漁場では *A. catenella* が出現していたが、何れも 10^2 cells/l 以下の密度であり、ヒオウギガイのDSPは全てNDであった。
- 4 浦神湾では *A. catenella* が5月10日に 2.0×10^3 cells/l 出現していたが、ヒオウギガイのPSPは13.0 MU/g（中腸腺値）までで規制値を超えることがなかった。

*1 赤潮貝毒監視調査事業費による。

*2 水産課

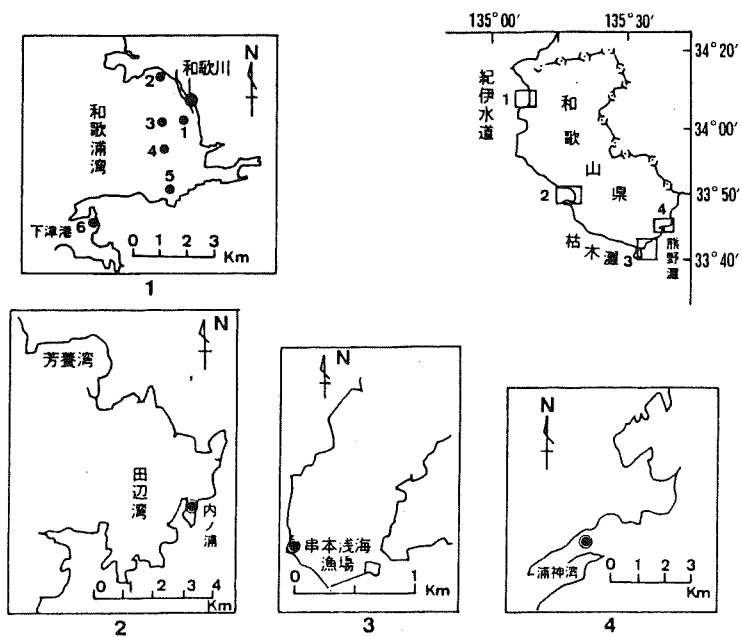


図1 調査水域と定点 (●)
和歌浦湾の●は水温、塩分とプランクトンの観測点を示す。

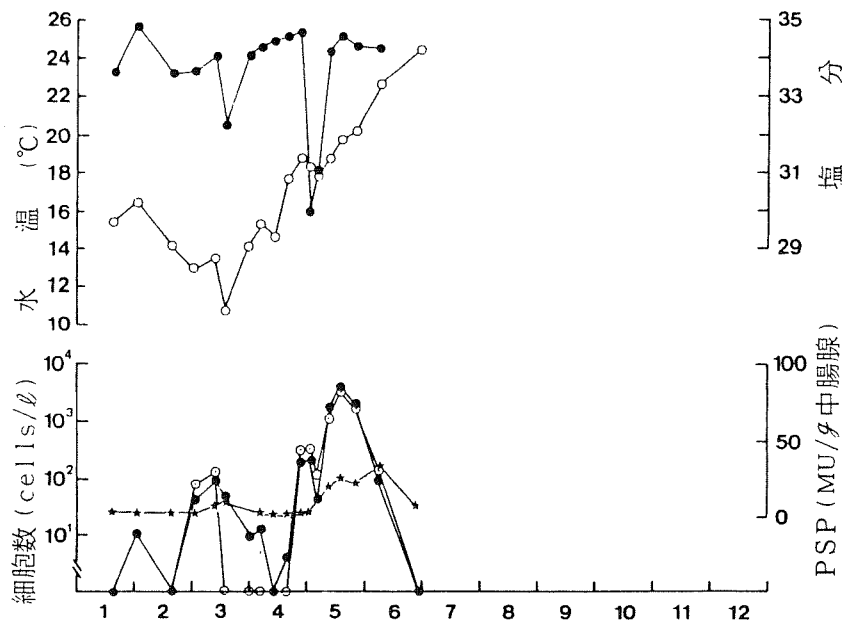


図2 田辺湾内ノ浦における水温、塩分、*Alexandrium catenella* の発生量とヒオウギガイのPSPの推移 (1993)
上段：○—○水温 (表層), ●—●: 塩分 (表層)
下段：○—○ *A. catenella* (表層), ●—● *A. catenella* (全層平均値)
★—★ヒオウギガイのPSP (中腸腺値)